

2016 年度
事業報告書
(2016.4 - 2017.3)

公益財団法人 都市活力研究所

事業の状況

【公益事業1】 産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

1. バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズを育成する事業

※シーズ: 大学等の有望な技術や研究テーマ

- 創薬シーズ相談会

創薬シーズや創薬基盤技術を保有する研究者からの相談に対し、産業界のニーズに精通した製薬企業の研究企画部門担当者が助言を行っている。大阪医薬品協会との共同主催により 2010 年度より開催。全国からシーズを収集するため、医学系大学産業連携ネットワーク協議会 (medU-net) と昨年度より連携しているほか、地方の大学での認知度向上にも努めている。

今年度は計 11 回開催した。

| 日時 | シーズタイトル | シーズ相談者 |
|-------|-------------------------------------|--|
| 7/5 | 筋形成促進剤、筋萎縮抑制剤、医薬組成物及び TAZ 活性化剤 | 東京医科歯科大学 教授 畑 裕 |
| 7/13 | ケモカインと CpG DNA を利用した細胞性免疫活性化剤 | (公財)東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野 幹細胞プロジェクトリーダー 原 孝彦 |
| 9/7 | 神経変性疾患治療剤 | 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 北條 浩彦 |
| | 二次進行型多発性硬化症新規治療薬 | 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所免疫研究部 神経研究所 大木 伸司 |
| 10/6 | 環状ホスファチジン酸を用いた多発性硬化症治療薬 | 埼玉医科大学 薬理学教室 講師 吉川 圭介 |
| 10/18 | 創薬ターゲット探索へのディープラーニングの応用 | 大阪大学大学院基礎工学研究科 機能創成専攻 教授 三宅 淳 |
| 11/8 | 2型糖尿病ゼブラフィッシュを用いた in vivo スクリーニング技術 | 三重大学大学院医学系研究科薬理ゲノミクス分野 講師 島田 康人 |
| 12/15 | 革新的脳卒中治療薬 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・創薬薬理学 教授 植田 弘師 |
| 2/15 | 酸化オリゴ糖で架橋剤したゲル材料 | 北陸先端科学技術大学院大学 産学官総合連携推進センター 産学官連携コーディネーター 上村 渉 |

| 日時 | シーズタイトル | シーズ相談者 |
|------|-------------------------------------|--|
| 3/7 | 抗生物質に代わる新規合成抗菌薬 | 大阪産業大学新産業研究開発センター 教授 (株)オーエスユー・代表取締役 山田 修 |
| 3/30 | 多様な疾患への応用が期待される成長因子プログラニューリンによる創薬開発 | 新潟大学脳研究所神経内科 准教授 下畑 享良 |

- バイオ技術シーズ公開会

アカデミアの有する優れたバイオ技術シーズを広く産業界に公開することで、新たな産業化のための機会を創出することを目的とする。NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議との共同主催により今年度より開始。計 2 回開催した。

<9/9 は、9 シーズを紹介し 55 名が参加>

| No | テーマ | 機関名・所属 |
|----|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 | 有機溶媒を用いたバイオマス成分分離法 | 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 |
| 2 | 改良型細胞表層発現用遺伝子カセットの開発 | 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 |
| 3 | 匂いの評価方法 | 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 |
| 4 | オリゴ糖を基盤とした架橋剤およびゲル材料 | 北陸先端科学技術大学院大学 産学官総合連携推進センター |
| 5 | 生物関連物質の付着を抑制するポリマーコート剤 | 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 |
| 6 | 微生物発酵法による植物アルカロイド生産と創薬展開 | 石川県立大学 生物資源工学研究所 |
| 7 | 糖尿病ゼブラフィッシュを用いた in vivo スクリーニングシステム | 三重大学大学院 医学系研究科 |
| 8 | レアメタル、レアアース高回収能を示す酵母の探索 | 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 |
| 9 | 上皮細胞のバリア機能を向上させる化合物のスクリーニング法 | 九州大学 理学研究院 |

<12/2 は、8 シーズを紹介し 38 名が参加>

| No | テーマ | 機関名・所属 |
|----|----------------------------------|----------------------------|
| 1 | 培養系ヒト腸管モデルによる食品成分機能性評価 | 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 |
| 2 | 牛乳を原料とした新規調味料「酪醬」 | 立命館大学 生命科学部 生物工学科 |
| 3 | ミニ腎臓を用いた腎不全・透析への移行を阻止する画期的治療法の開発 | 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 腎臓内科学分野 |

| | | |
|---|--|---------------------------|
| 4 | 機械学習的アプローチによる遺伝子発現量と SNP の間の因果関係推定について | 大阪大学大学院 理学研究科 |
| 5 | ライソゾーム病の治療薬候補 2-hydroxy-propyl- γ -cyclodextrin (HPGCD) | 熊本大学 発生医学研究所 幹細胞誘導分野 |
| 6 | 微脳波から一過性の脳内情報を評価・読み出す方法 | 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 |
| 7 | 一次元膨潤・収縮ゲルシート | 大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 |
| 8 | 岡山大学病院バイオバンクがみなさんのお役に立てること | 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 |

2. 創薬分野におけるスーパーコンピュータ利用を促進する事業

- インシリコ創薬支援事業 ※インシリコ創薬:スーパーコンピュータ等を活用した創薬
インシリコ創薬に関する様々な情報の提供やスーパーコンピュータ創薬の利用推進を目的とする。NPO 法人バイオグリッドセンター関西との共同主催(一部、後援)で 2010 年度より講演会等を開催。
今年度は、計 6 回開催した。

| 日時 | タイトル | 参加 |
|---------------|---|---------|
| 4/22 | CBI 学会 第 371 回研究講演会 翻訳後修飾研究のフロンティアとそれを支える基盤技術－創薬 R&D への期待－ | 56 名 |
| 5/28 | バイオグリッド研究会 2016～実用化に向けて動き出したスパコン創薬新時代～ | 48 名 |
| 9/1 | CBI 学会 第 376 回研究講演会 「AI 創薬の可能性と展望について」 | 123 名 |
| 10/4 -1/24 | 計算生命科学の基礎Ⅲ(後援) | 約 300 名 |
| 11/25 | CBI 学会 第 377 回研究講演会 「fMRI 脳機能イメージング:新しいバイオマーカーを求めて」 | 82 名 |
| 2/3 | CBI 学会 第 380 回研究講演会 「AI 創薬の可能性:自然言語処理技術の現状と課題」 | 98 名 |

- AI コンソーシアム(LINC:Life Intelligence Consortium)
創薬を含むヘルスケア産業における人工知能(AI)の活用を、製薬企業や IT 企業等が中心となって促進するコンソーシアム(LINC)の発足・運営支援を行った。
プレコンペティティブ領域における AI のプロトタイプシステムの構築を目指しており、今年度は産業界が取り組みたいテーマや AI の実現可能性を調査した。具体的には、未病・先制医療、診断、創薬テーマ創出、制御分子創製、トランスレーショナルリサーチなどの分野における約 60 テーマについて学習データの有無、適用可能なアルゴリズムなどを調査し実現可能性を検討した。

11/17 設立総会開催
11/30、12/6 参画説明会開催
1/20 キックオフ会議開催
テーマを調査するためのタスクフォース(TF)発足(10TF)

- 2/13 タスクフォース(TF)中間報告会
- 3/14 タスクフォース(TF)最終報告会

- FMO コンソーシアムの運営支援 ※FMO:フラグメント モレキュラー オービタル
創薬における計算機利用のうち、FMO 法による蛋白質と化合物の結合状態を解析するアプリケーションの創薬現場での利用可能性を、星薬科大学、神戸大学、理化学研究所、製薬企業等が参加し検証するコンソーシアムの運営支援を昨年度より行っている。
今年度は、後述する【その他事業】バイオグリッド HPCI プロジェクト(KBDD プロジェクト)とともに計算結果の開示等を行った。今後も密に連携する運びとなっている。

3. 技術革新や新たな価値創造を支える人材の育成及び人的ネットワークのあり方について調査を行う事業

(1)人材育成事業

- GVH Demo Day 2016
GVH Osaka は、起業家支援オフィスとして 2011 年 1 月に梅田に開設した。以降、スタートアップのエコシステムを大阪に創ることを目標として活動し、規模拡大に伴う退去者を含めると会員数は 120 名を超える規模に成長している。会員数の増加を受け、2014 年度下期には姉妹施設の GVH#5 が阪急電鉄(株)により開設され、起業家支援活動はさらに活発化している。
GVH Demo Day は、この動きをより推進して大阪における新事業を創造するため、GVH Osaka の活動を契機に生まれた大阪発スタートアップと、投資家、企業、メディア関係者とのマッチングの場として、昨年度より開催している。
今年度は、春季を 4 月 26 日に秋季を 11 月 11 日に開催した。参加者はメディア、起業家、投資家等で、春季は 121 名、秋季は 66 名であった。
- GVH Meetup
国内外のイノベーション人材と GVH メンバーを引き合わせ、起業家マインドの醸成と情報連携を行うため、小単位での勉強会として今年度より開催している。
今年度は、8 回開催した。

| 日時 | タイトルおよび講師 | 共同主催者 | 参加 |
|------|---|---|------|
| 5/19 | スタートアップのためのアメリカビザオプション カリフォルニア州弁護士 李彦 | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ | 4 名 |
| 5/23 | スタートアップが考えるべきコミュニティづくりと ”効く”イベントの作り方 Orinoco Peatix(株) コミュニティマネージャー 白勢 竜彦 | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ Orinoco Peatix | 11 名 |
| 6/14 | Meetup for Youth サンブリッジ グループ CEO Allen Miner | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ | 13 名 |
| 6/23 | Tapjoy を活用したデジタル広告からの集客方法 ～デジタル広告のグローバルトレンドと ユーザーがモバイル広告に期待すること～ タップジョイ・ジャパン 執行役員 佐藤 康雄氏 | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ Tapjoy Japan | 14 名 |
| 8/3 | sxsw(サウスバイサウスウエスト)に学ぶ、 海外イベントでの出展・登壇の極意 SXSW エヴァンジェリスト サカモト ハルヒコ氏 | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ (株)ASADA 未来予報研究会 | 12 名 |

| | | | |
|-------|---|---------------------------------|-----|
| 9/13 | Startup Dojo- Leanで Agile なスタートアップを育て上げるには？英国最新スタートアップ事情 | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 英国総領事館 | 16名 |
| 10/5 | How English and Cultural Understanding Can Help You Succeed ～グローバルで成功するために必要なこと～ | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 阪急電鉄(株) | 11名 |
| 10/24 | 会社経営でやっていいこと・悪いこと | (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ | 9名 |

- GVH Startup Camp 2016

若手による起業を促進するため、今年度より新たに3か月集中型の起業家育成プログラムを企画し、8月から10月まで8セッションを実施した。第1期生として23名が参加し、10月23日の最終報告会では約50名の一般参加者及び審査員の前で、7チームがビジネスモデルを発表した。結果、最優秀賞及びオーディエンス賞には、若手シェフのためのシェアキッチンを企画提供する「peep kitchen studio」、優秀賞には、エンジニアとしての研修を就職前に起業の依頼によって実施し、即戦力確保につなげる「TECH INTER」、起業と工業高校生をつなぐ「イノ部」がそれぞれ受賞した。今回生み出されたチームのほとんどが、本プログラム終了後もGVH Osakaにて継続してビジネスを磨き、起業に至った。

| 日時 | 内容 | 講師 |
|----------------|-------------------------|---|
| 8/20 | チームビルディング | 京都工芸繊維大学 特任准教授 Sushi Suzuki |
| 8/21 | デザインシンキング | 京都工芸繊維大学 特任准教授 Sushi Suzuki |
| 9/8 | ビジネスモデル | ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ(株) 共同代表 堤 孝志 |
| 9/15 | プログラミング基礎 | (株)クロノス ラーニンググループ 講師 村山 雅彦 |
| 9/29 | ハードウェア基礎 | (株)アドベン IoT エンジニアリング担当 吉田 研一 |
| 10/15 10/16 | プレゼンテーション プロトタイプキャンプ | (株)ブラグラム 代表取締役社長 山本 博士 (株)フリープラス 代表取締役社長 須田 健太郎 |
| 10/23 | DemoDay | (株)VSbias 代表取締役社長 留田 紫雲 (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 代表取締役社長 平石 郁生 |

- 国際イノベーション会議 Hack Osaka 2017

2013年度から昨年度の3年間、大阪府が取り組むグローバルイノベーション創出支援事業を、(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)、(公財)都市型産業振興センター、(株)サンブリッジ グローバルベンチャーズとともに受託し、主に国際展開、人材育成、プロジェクト創出事業を担当してきた。

そのなかでも当財団が企画運営を主担当したのが「国際イノベーション会議 Hack Osaka」であり、毎年500名を超える参加者を得るとともにマスメディアへの露出も多く好評を博しているため、今年度より大阪府と当財団の実行委員会形式で継続開催している。

今年度は、「イノベーション文化を創る『デザイン』の力-The Power of Design for Innovative Culture」をテーマに、イノベーションを生み出すまちやひとのデザイン(設計)に関して世界の事例を紹介するとともに、大阪府が取り組むべき課題について考える場として2017年2月9日に開催し、参加者は737名、TV局はじめマスメディアに12件掲載された。

内 容:

(1)グローバルチャレンジャーズトーク 土屋 尚史氏(株)グッドパッチ CEO)

(2)講演

-1 Mr. Nick Sturge (Director of Engineshed)

-2 Mr. Jeffrey McDaniel (Executive in Residence)

-3 Ms. Ajay Revels (strategic design researcher at Politemachines.com)

(3)パネルディスカッション

上記講演者に加え、吉川 正晃氏(大阪市 経済戦略局 理事)

モデレータ Mr. Sushi Suzuki(京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任准教授)

(4)国際ナショナルピッチコンテスト

- Tomodachi Women's Leadership 2016

女性グローバルリーダー育成プログラム「Tomodachi Women's Leadership」は米国大使館が推進しており、大阪地区では、駐大阪・神戸アメリカ総領事館(関西アメリカンセンター)主催のもと 2013 年度より実施され、当財団が共同主催してきた。今年度も駐大阪・神戸アメリカ総領事館の審査を通過した 20 名に対して 9 月より開講、全 5 セッションを実施した。

- アーバンイノベーションセミナー(産業分野)

産業の活性化に関わる最新動向を紹介することを目的として、2010 年度より企画し開催している。今年度は計 2 回開催した。

| 日時 | タイトルおよび講師 | 主催等 | 参加 |
|-------|---|--|------|
| 4/8 | シリコンバレーに学ぶ起業家精神～イノベーション噴出の仕組み シリコンバレージャパンビジネスコンサルティング CEO Mark Kato 氏 | 主催: 当財団 共催: 大阪イノベーションハブ | 26 名 |
| 11/21 | シリコンバレーの起業にはなぜ成功するのか ～成功の秘訣～ カリフォルニア大学サンフランシスコ校 アントレプレナーシップセンター長 Stephanie Marrus 氏 | 主催: 駐大阪神戸米国総領事館 共催: 当財団、 大阪イノベーションハブ | 40 名 |

- スーパーコンピューティング・コンテスト

高校生・高専生を対象にした高いレベルのプログラミング技術を競うコンテストを、大阪大学、東京工業大学との共同主催により毎年度開催している。

当財団が関わってから 10 回目となる今年度は、本選を 8 月 17 日～8 月 21 日に開催し、全国から予選を勝ち抜いた 20 チームが大阪大学、東京工業大学に集結して大阪大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。優勝は筑波大学附属駒場高等学校、準優勝は久留米工業高等専門学校、3 位は明石工業高等専門学校であった。

- バイオ講座 第5回ライフサイエンスMOT講座『ライフサイエンス・アントレプレナー入門塾』
(文部科学省地域イノベーション戦略プログラム)

起業を念頭にライフサイエンスビジネスに関わる人材の育成を目的に、神戸大学との共同主催にて 2014 年度より開催している。

本講座は“イノベーション・新技術をベースにした新事業創造やベンチャー企業のあり方“に主眼をおき、ライフサイエンスの様々な分野に渡る内容を網羅して、大学院生、大学・機関研究者、起業家を目指す若手研究者・事業開発担当者を対象とする。

今年度の受講生は定員 25 名を超える 33 名。国内外の産業界の第一線で活躍する講師として招き、ライフサイエンス分野の産業に関する現状、課題ならびに将来展望等、ライフサイエンスビジネスのグローバルな知識や考え方を得る場および交流の場を提供した。

| 日時 | タイトル | 講師 |
|-------|--|---|
| 6/25 | ・オリエンテーション ■デザイン思考プレワークショップ ①リーダーシップと組織パフォーマンス | ①神戸大学連携創造本部 森 一郎 ①滋賀医科大学 祇園 景子 ①サノファイ(株) 能見 貴人 |
| 7/16 | ②科学技術イノベーションと アントレプレナーシップ ③ビジネスで求められる知財活用 | ②神戸大学 忽那 憲治 ③山本特許法律事務所 山本 健策 |
| 8/6 | ④Watsonと医療の世界 ⑤企業価値向上のための法務経営戦略 | ④日本IBM(株) 溝上 敏文 ⑤西村あさひ法律事務所 井垣 太介 |
| 9/3 | ⑥世界の医療技術/医薬品開発の課題 ⑦医療・創薬におけるICTの可能性 | ⑥GE ヘルスケアアジア(株) 梶原 大介 ⑦京都大学 奥野 恭史 |
| 9/24 | ■デザイン思考ワークショップ | 滋賀医科大学 祇園 景子 |
| 10/15 | ⑧医療分野の新産業創出 【ライフサイエンス・クラスターの紹介】 ⑨京都リサーチパーク ⑩けいはんな ⑪彩都 ⑫健都 ⑬英国 ⑭神戸医療産業都市 | ⑧日本医療政策機構 宮田 俊男 ⑨京都リサーチパーク(株) 田畑 真理 ⑩(公財)関西文化学術研究都市推進機構 瀬渡 比呂志 ⑪バイオ・サイト・キャピタル(株) 荻野 真一 ⑫大阪府商工労働部 池田 純子 ⑬在大阪英国総領事館 Patrick Bannister ⑭神戸市 医療・新産業本部 三重野 雅文 |
| 11/5 | ⑮ジャパン・バイオデザイン ー革新的医療機器を産み出すエコシステムの構築に向けてー ⑯グローバル製薬企業の動向 | ⑮大阪大学 八木 雅和 ⑯Pfizer Inc. Jem Gale |
| 12/3 | ⑰ロジカル思考 ワークショップ ⑱バイオベンチャーの目論見書解説 ⑲ポジティブシンキング | ⑰滋賀医科大学 祇園 景子 ⑱合同会社SARR 松田 一敬 ⑲株創晶 安達 宏昭 |

●関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の研究者を招き、健康産業に関する研究の紹介を通じて、本分野の最新情報および参加者同士の交流の場を提供することを目的としている。2014 年度に開始し、3 か月ごとに開催している。当初、全 10 回の予定であったが好評のため継続することとなった。NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議との共同主催、大阪医薬品協会の後援。

| | タイトル | 講師 | 参加 |
|---------------|---|--|------|
| 第8回 6/10 | 「生体内骨髄間葉系幹細胞を標的とした体内再生誘導医療開発の現状と未来」 「京都大学発アカデミア創薬—卓越した基礎研究から医師主導治験まで—」 | 大阪大学大学院医学系研究科 教授 玉井 克人 京都大学大学院 医学研究科 教授 萩原 正敏 | 50 名 |
| 第9回 9/21 | 「最新の生体イメージング技術で捉える免疫炎症・骨破壊の動的実体」 「中枢神経障害に対する再生治療戦略」 | 大阪大学大学院医学系研究科・生命機能研究科 免疫細胞生物学 教授 石井 優 大阪大学大学院医学系研究科 教授 山下 俊英 | 64 名 |
| 第10回 12/16 | 「mRNA 分解による炎症調節メカニズム」 「遺伝統計学で迫る疾患病態の解明とゲノム創薬」 | 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授 竹内 理 大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学 教授 岡田 随象 | 44 名 |
| 第11回 3/9 | 「実用化された最新クライオ電顕技術～創薬への応用～」 「中枢神経障害に対する再生治療戦略」 | 大阪大学蛋白質研究所 准教授 岩崎 憲治 医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー 國澤 純 | 41 名 |

●バイオメディカル研究会

日本バイオインフォマティクス学会の関西地域部会のもと、共同主催兼事務局としてシンポジウムの企画、広報、運営等を支援している。後援はNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、NPO法人バイオグリッドセンター関西等の関西のバイオ産業振興団体が行っている。

2006 年度から開始し 10 年を経て、本研究会のシンポジウムは広く認知されてきた。交流会も盛況で、アカデミアとインダストリーの各々の研究者の情報交換の場となり、専門家同士のコミュニティが醸成されている。

| | タイトル | 講師 | 参加 |
|--------------|--|---|------|
| 第21回 9/6 | 1. 「低温電子顕微鏡を用いた単粒子解析の最近の進展と膜タンパク質への応用」 2. 「クライオ電子顕微鏡で観る細胞骨格微小管と分子モーター」 3. 「分子シミュレーションと実験の連携」 4. 「構造多形をもつ生体高分子の全原子モデルの構築」 5. パネルディスカッション 司会 長浜バイオ大学 白井 剛 | 大阪大学 教授 光岡 薫 理化学研究所 仁田 亮 横浜市立大学 池口満徳 量子科学技術研究開発機構 河野 秀俊 *上記4名の講師に加え、 小野薬品工業(株) 楠田 誠 科研製薬(株) 園田 秀和 | 55 名 |
| 第22回 3/11 | 1. 「遺伝子関連検査と医療ビッグデータその現状と将来展望」 2. 「ゲノム医療を切り拓くクリニカルバイオバンク」 3. 「岡大バイオバンクの取り組み 日本の創薬を元気にする」 4. 「生活習慣と連動した腸内細菌の形成と健康科学への新展開」 5. 「バイオバンク活用に向けた業界での取り組み」 6. パネルディスカッション | 千葉大学 教授 松下一之 北海道大学 西原広史 岡山大学 森田瑞樹 医薬基盤・健康・栄養研究所 國澤 純 田辺三菱製薬(株) 赤塚浩之 *上記5名の講師に加え、 | 59 名 |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | 「バイオバンク・データベースの現状 課題と将来展望」 司会 大阪大学 坂田 恒昭、 神戸大学 荒木通啓 | (国研)日本医療研究開発法人 加藤 治 文部科学省 原 克彦 大日本住友製薬(株) 松本 弥生 | |
|--|--|---|--|

●「企業・研究組織におけるオープンイノベーションの現状と課題を考える」セミナー

ライフサイエンス分野における企業のオープンイノベーションをテーマに、神戸大学連携創造本部との共同主催にて開催した。オープンイノベーションを企業や研究組織で促進していくためには何が必要となるのかについて深く掘り下げ、企業・大学・研究機関等での人材育成活動への組織的な取り組みのために考慮すべき点を、2人の講師と共に考える場となった。

| | タイトル | 講師 | 参加 |
|------|---|---|-----|
| 2/28 | 1. 講演「日本人はイノベティブか? 組織とリーダーシップのあり方への提言」 2. 講演「グローバル製薬企業におけるオープンイノベーション: 日本における課題とソリューションへの提言」 | コーン・フェリー・ヘイグループ(株) シニアクライアント パートナー 山口 周 サノフィ(株) External Science & Partnering Director 能見 貴人 | 61名 |

(2) 調査研究事業

● 大阪における起業環境・産業立地に関する基礎的研究

起業環境を整え、地域産業を活性化する継続的な取り組みについて、3カ国4都市の先進事例を調査研究した。

4月には米国・ニューヨークを訪問し、現地の起業家、アクセラレーターとの情報交換を行ったほか、ニューヨーク最大のスタートアップイベント「Tech Day」や世界10都市で開催されるアクセラレーションプログラム「Startup Boot Camp」を視察し、最新のスタートアップ動向を探った。さらに、昨年訪問したコワーキングオフィス We Work や NY Media Centre に再度訪問し、近況や新規取組みについてヒアリングを実施した。

7月にはドイツ・ベルリンを訪問し、現地の起業家・大学生との意見交換を行ったほか、イギリス・ロンドン Tech City 地区周辺の視察及びブリストルのインキュベーションオフィス訪問等を通じて、欧州におけるイノベーション創出の経緯と仕組みについて調査を行った。

なお、ニューヨーク・ベルリンの2都市では(株)サンブリッジ グローバルベンチャーズ主催のビジネスプランコンテスト「Innovation Weekend」の運営補助を行ったが、各都市の出場者のうち有望な1社を「Hack Osaka2017」のピッチコンテスト出場者として大阪に招待することで、先進スタートアップの大阪誘致に繋がる手法を探った。

● 未来創薬研究会

創薬分野における近い将来の革新的技術およびその方向性等を探り、それを活用するための仕組みや仕掛けづくりを、アカデミアや製薬企業の研究開発者とともに議論するメンバー制の研究会で、2013年度より主催し推進してきた。今年度は外部から講師を計5回招き、意見交換を行った。

また、2016年2月の「マイクロバイオーム(体内細菌叢)」をテーマとした議論を端緒に、6月からNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議とともに事務局を担い、製薬企業を主体とした複数の企業(17社)でコンソーシアムの組成を目指して準備活動を行ってきた。2017年度期初には一般社団法人の設立を行い、健康な人間の腸や口腔等に存在する細菌を分析してデータベースを構築する方向で活動を始めていく予定である。

そのため、本研究会は、新法人の設立という一定の成果を産み出したことから今年度で活動を終えることとし、今後は当財団が事務局を担い、新法人の活動支援に注力していくこととした。

| | タイトル | 講師 |
|-------|---------------------------------------|----------------------------|
| 4/28 | 「NITEにおけるマイクロバイオーム研究概要」 | 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 川崎 浩子 |
| 5/16 | 「ロボティック・バイオロジー・インスティテュートが拓く未来創業」 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 夏目 徹 |
| 9/29 | 「情報利用AI、ビッグデータ、IoTは研究開発にどのような変革を起こすか」 | メンバー全員で議論 (座長: 坂田 恒昭) |
| 11/24 | 「AIの医療・ヘルスケアへの活用事例」 | (株)シード・プランニング 渡部 正子 |
| 1/18 | 「医療政策・管理学」 | 慶応義塾大学 宮田 裕章 |

● 医療機器分野についての調査・研究

今年度より、医療機器分野でのビジネス展開について調査・研究を開始した。当財団では初めての調査対象分野であるため、ビジネス支援において先行している大阪商工会議所が開催するセミナーおよび商談会に共催することにより着手。計 2 回のセミナーでの最新情報の提供のみならず商談会を併設し、大手企業とのビジネスマッチングの機会を中小企業に提供した。

| | タイトル | 講師他 | 参加 |
|------|------------------------------|--|-------|
| 8/26 | 「医療機器ビジネス参入促進セミナー」 | (公財)医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員 鈴木 孝司 | 135 名 |
| 8/26 | 「医療機器分野での販路開拓商談会」 (個別商談会) | 京セラメディカル(株)と取引希望の 10 社 | 60 名 |
| 1/24 | 「医療機器ビジネスの実践ノウハウを学ぶ少人数セミナー」 | 大阪商工会議所 コーディネーター 佐藤 純一 | 19 名 |

● ヘルスケア分野についての調査・研究(スマートウェルネス研究会)

健康医療分野の産業振興に資する新たなビジネスモデルや新たな医療機器関連サービスの創出を目的に、調査・研究を行う。スマートウェルネス研究会の事務局を務め、スマートウェルネス・オープンセミナーを本分野の最新動向や課題等の情報を提供することを目的として、開催してきた。

5 月末、スマートウェルネス研究会の解散により、セミナーは当財団が主催となり継続開催した。質疑応答、意見交換のセッションならびに交流会では、参加者から活発な質問や意見が出て、本分野への関心の高さが確認されている。活動を通じ、ヘルスケア関連企業以外の広がりも含めたコミュニティの醸成に努め、異業種間交流を促進している。

| | タイトル | 講師 | 参加 |
|----------------|--|---------------------------------------|------|
| 第 13 回 6/23 | テーマ: 【看護・介護分野におけるホーム・ロボティクス 新事業の可能性を探る】 「iRooBO の紹介と事業取り組み事例」 | (一社)i-RooBO Network Forum 理事 瀬川 寿幸 | 35 名 |

| | | | |
|-----------------------|---|--|------|
| | <p>企業発表(1)</p> <p>企業発表(2)</p> <p>企業発表(3)</p> <p>トークセッション 「どうしてニーズはあるのにヒット商品が出ないのか?取り組むべき方向性は?」</p> | <p>スマイル・プラス(株) 代表取締役 伊藤 一彦</p> <p>(株)幸和製作所 営業企画課 課長 新井 文武 (株)ロボリユーション 代表取締役 小西 康晴</p> <p>全員 (ATCエイジレスセンターにて)</p> | |
| 第 14 回 10/7 | <p>「スカイプを活用した遠隔ロコモーショントレーニングの実際」</p> <p>「Kinect(キネクト)を活用した VR 運動支援の実際」</p> | <p>(一社)アジアロコモーショントレーニング協会 代表理事 大西 裕 (株)ラッキーソフト 代表取締役 三田村 勉</p> | 32 名 |
| 第 15 回 2/6 | <p>「情動変化の科学的解明と『ココロスケール』に関する基本説明」</p> <p>「情動変化分析ツール『ココロスケール』を活用したリビングラボ」</p> <p>【模擬実証トライアル:療養応援食】 「ココロスケール活用型『ヘルスケア・リビングラボ』の展開とフィールド実証事業への取り組み」</p> | <p>理化学研究所 片岡 洋祐</p> <p>(株)Kokorotics 武坂 寿夫</p> <p>海商(株)「やわらかシリーズ」 よどきり医療と介護のまちづくり(株) 卯津羅 泰生</p> | 30 名 |
| 第 16 回 (1) 2/9 | <p>【スマートエイジング・シティから始まる地方創生、新事業創出の鼓動】「地域見守りサービスの現状と将来への事業展開」</p> <p>「地域包括ケアの拠点・よどまちステーションの展開」</p> | <p>大田区地域包括支援センター 澤登久雄 よどきり医療と介護のまちづくり(株) 三輪 恭子</p> | 29 名 |
| 第 16 回 (2) 2/22 | <p>「在宅ヘルスケアビジネスにおける新事業モデル創出」</p> <p>「ヘルスケア地域デザインからのビジネスアプローチ」</p> | <p>多摩大学大学院 真野 俊樹</p> <p>よどきり医療と介護のまちづくり(株) 石井 富美</p> | 26 名 |
| 第 16 回 (3) 3/3 | <p>「地域ヘルスケアと薬局が紡ぐ次世代ビジネスモデル」</p> <p>「まちの保健室・まちカフェを核とした地域多世代交流」</p> | <p>薬樹(株) 吉澤 隆治</p> <p>よどきり医療と介護のまちづくり(株) 橋本 千佳</p> | 30 名 |
| 第 16 回 (4) 3/9 | <p>「訪問看護ステーションが挑戦する地域イノベーション」</p> <p>「これからの訪問看護師に求められる人材像と教育モデル」</p> | <p>在宅療養支援 楓の風グループ 野島 あけみ よどきり訪問看護ステーション 小川 真里子</p> | 25 名 |
| 第 16 回 (5) 3/24 | <p>「ヘルスケア・コンパクトシティという“まちづくり”」</p> <p>「大阪が取り組むスマートエイジング・シティ戦略とは」</p> | <p>新産業文化創出研究所 代表取締役 廣常 啓一 大阪府・大阪市 副首都推進局 理事 金森 佳津 (代役)大阪府 政策企画部 課長補佐 廣瀬 武夫</p> | 76 名 |

【公益事業2】 まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

1. これからのまちづくりのあり方についての調査研究

- 都心戦略検討会

新たなまちづくりの調査・研究のために、学識経験者、行政、企業等のメンバーで構成する研究会を2011年度より運営している。

今年度は、昨年度からの2か年目として「個性化戦略」と「都市再生と産業戦略」についてのシナリオを研究した。また、大阪市内の複数区で構成するエリアで、マスタープランとアクションプログラムを検討することにより、2008年に関経連で作成された大梅田グランドデザインの改訂版をイメージした成果物の作成を目指し、ゲストスピーカーを招いて議論を行ったほか、参加メンバーによるワークショップも開催した(参加メンバー21名)。

<都心戦略検討会(本会)>

| | タイトル | 講師 |
|-----------------|---|---|
| 第7回 (4/28) | ワークショップ～エリアにおける都市機能の集積と公共貢献の在り方～都市再生緊急整備地域における都市再生特別地区の運用等～ | (参加メンバー全員で実施) |
| 第8回 (6/22) | 「鉄道インフラの整備構想と将来のまちづくり」 | 大阪市 都市計画局 交通政策室長 太田 誠三 |
| 第9回 (8/9) | 「都市エネルギーインフラの計画とマネジメント」 「2030-50年に向けた都市の経営戦略と環境・防災」 「梅田1丁目1番地計画～サステナブル建築物等先導事業の概要ならびに環境・BCPの取組みの紹介」 | 大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授 下田 吉之 (株)日本政策投資銀行 環境・CSR部 副調査役 BCM 格付主幹 蛭間 芳樹 阪神電気鉄道(株) 不動産事業本部 技術部(設備担当) 課長 小浜 良太 |
| 第10回 (8/18) | 「Osaka Innovation Hub 世界に繋がる関西のハブ」 | 大阪市経済戦略局 大阪イノベーションハブ 理事 吉川 正晃 氏 |
| 第11回 (10/21) | (都心戦略検討会拡大版シンポジウム) シンポジウム「大阪の個性・文化資源を見つめなおし、まちづくりに活かす」 | (公財)山本能楽堂 事務局長 山本 佳誌枝 千島土地(株) 代表取締役社長 芝川 能一 大阪府江之子島文化芸術創造センター 館長 甲賀 雅章 関西学院大学 総合政策学部 教授 角野 幸博 |

| | タイトル | 講師 |
|-------------------|---|---|
| 第 12 回 (11/21) | (都心戦略検討会拡大版シンポジウム) アーバンイノベーションセミナー 「2030 年の UMEDA を予測する」 | 大阪大学大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻 教授 浅田 稔 国立開発研究法人情報通信研究機構 監事 土井 美和子 (株)国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボ ティクス研究所 所長 萩田 紀博 りそな総合研究所(株) 主席研究員 荒木 秀之 |
| 第 13 回 (12/2) | 「船場ミックス」 | 大阪市都市計画局開発調整部 地域開発担当課長 水野 智雄 |
| 第 14 回 (12/21) | ワークショップ～2030 年のキタエリアの将来像(役割 と連携等)を考える 切り口① エリアMICE・文化創生 切り口② 歩いて楽しめる・回遊できる、 エリアマネジメント | (参加メンバー全員で実施) |
| 第 15 回 (1/26) | ワークショップ～2030 年のキタエリアの将来像(役割 と連携等)を考える 切り口③ イノベーション 切り口④ アーバンデザイン・環境防災・ エリアマネジメント | (参加メンバー全員で実施) |
| 第 16 回 (2/23) | ワークショップ～2030 年のキタエリアの将来像(事業 と制度・手法)を考える 切り口① エリアMICE・文化創生 切り口② 歩いて楽しめる・回遊できる、 エリアマネジメント 切り口③ イノベーション 切り口④ アーバンデザイン・環境防災・ エリアマネジメント | (参加メンバー全員で実施) |

<都心戦略検討会(ワーキング)>

大学との共同研究という形で、具体的なエリアとテーマを定めてフィールドワークを行った。

| | テーマ及び研究内容 | 研究担当者 |
|------------|--|---|
| ワーキング A | 「大阪市北区のオープンスペースネットワーク化によるまち魅力向上策の検討」 大梅田エリア、中之島エリアを対象として、それらの地域に点在するオープンスペースを回遊性のノードとして捉え、大阪キタの玄関口から水都大阪への回遊ルートを提案するとともに、大阪市北区におけるオープンスペース利用の方向性と実現するための課題と対応策を整理する | 大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 教授 加賀 有津子 講師 武田 裕之 |
| ワーキング B | 「御堂筋オフィス街のソフト面での活性化策の検討」 オフィス街のソフト面での活性化策として、コミュニティ活動に焦点をあてた調査を実施する。御堂筋・船場エリアを対象に実際にワーカー向けのコミュニティ活動を複数種類立ち上げて運営することを通じて、コミュニティ活動の運営ノウハウを蓄積するとともに、参加者への継続的なアンケート調査によりコミュニティ活動に関する興味や自身が勤務する地域への愛着等の変化について分析する。 | 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科基盤科学系 教授 川北 真史 |

● 郊外まちづくり

大都市近郊エリアの市町村に存在する郊外住宅地において、今後人口減少・高齢化することで生じる問題への対応方策を、2013年度より調査研究している。

具体的・実践的に、郊外住宅地における課題抽出と機能集約等コンパクトシティ形成を促進していく方策を検討するため、都市住宅学会に2014年度より委託し研究を行っているが、今年度は当財団と京阪グループ(ホールディングス、電鉄、不動産)がジョイントして委託することとし、対象地区を阪急京都線沿線の茨木市周辺、京阪本線沿線の寝屋川市・枚方市周辺に設定してケーススタディを実施した。

| 対象地区 | 研究担当者 |
|--|--|
| (1) 今後拠点駅前において再々開発が行われる地域 ・阪急、JR 茨木市、高槻市 ・暮らしと駅についてのアンケート調査 STACIA カード会員向けに実施 回答数 427 配信数 5,442 | 関西学院大学 総合政策学部 教授 角野 幸博 関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授 岡 絵理子 |
| (2) 今後広範囲な高架化事業が行われる地域 ・京阪 寝屋川市、枚方市 ・暮らしと駅についてのアンケート調査 e-kenet 会員カード会員向けに実施 回答数 3,485 配信数 15,317 | 武庫川女子大学 生活環境学部 講師 水野 優子 大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 助教 伊丹 康二 |

● Kansai Tourism Supporters

関西に留学する外国人学生によるボランティアチームを運営し、インバウンド観光に関する調査と情報発信を行った。

<主な活動実績>

| 日時 | 内容 | 主催者等 |
|------|-----------------------|-------------|
| 6/12 | 梅田の観光魅力を探るフィールドワーク | 自主調査 |
| 7/27 | 産業観光モデルコース設定支援事業(尼崎市) | 近畿経済産業局、尼崎市 |

| 日時 | 内容 | 主催者等 |
|----------|-------------------------------|-------------------|
| 7/30-31 | 梅田ゆかた祭 | 梅田ゆかた祭り2016 実行委員会 |
| 9/28-29 | 産業観光モデルコース設定支援事業(和歌山県) | 近畿経済産業局、和歌山県 |
| 11/6 | 産業観光博覧会(関西空港) | 近畿経済産業局 |
| 11/24~30 | 広域観光周遊ルート形成促進事業「美の伝説」調査事業 | 近畿運輸局 |
| 12/4 | 産業観光モデルコース設定支援事業(滋賀県彦根市) | 近畿経済産業局、彦根市 |
| 12/20 | はなやか関西魅力アップワード 優良事例一時評価 WG | 近畿経済産業局 |
| 2/21~22 | 産業観光モデルコース設定支援事業(福井県) | 近畿経済産業局、福井県 |

2. まちづくりに関する情報発信

- まちづくりセミナー

まちづくりに関する調査・研究の成果発表や様々な話題の提供を目的として、セミナーを行った。

| 日時 | タイトル・内容 | 共同主催者等 | 参加 |
|-------|---|-------------------------|------|
| 6/10 | 「これからの郊外 住まいと鉄道」第6回 駅から始まるコンパクトシティ形成に向けて(2) | (公社)都市住宅学会関西支部 | 130名 |
| 10/21 | (都心戦略検討会拡大版シンポジウム) シンポジウム「大阪の個性・文化資源を見つめなおし、 まちづくりに活かす」 | | 93名 |
| 11/21 | (都心戦略検討会拡大版シンポジウム) アーバンイノベーションセミナー 「2030年のUMEDAを予測する」 | | 112名 |
| 2/6 | 都市づくりについての技術研究発表と講演会 | アーバンインフラ・テクノロジー推 進会議 | 139名 |

また、2017年1月23日開催の「エリアマネジメントシンポジウム 2017inKANSAI」の事務局業務を受託することで開催協力を行った。(主催:梅田地区エリアマネジメント実践連絡会、全国エリアマネジメントネットワーク、京都大学経営管理大学院)

- UIIまちづくりレター

まちづくりにかかわる様々な話題や動向を調査して、レター形式により配信した(配信先:当財団の顧客DB約2,500名)。また、UIIまちづくりレターが初回発行から5年という区切りにレター原稿をまとめた冊子を1,200部作成し、まちづくり関係者に広く配布した。

| 日時 | タイトル・内容 | 筆者、監修者 |
|-------|---|----------------------------------|
| 4/25 | 水都大阪パートナーズの取組み ～3年間の活動とこれから～ | (一社)水都大阪パートナーズ 代表理事 高梨 日出夫 |
| 9/7 | 兵庫県立美術館～神戸市立王子動物園エリアにおける 「ミュージアムロード」整備と活性化の取組み | 兵庫県立美術館 営業広報グループリーダー 古巻 和芳 |
| 12/15 | バルからはじまるまちづくり ～一専業主婦がまちにハマった理由～ | 伊丹都市開発㈱ 参与 村上 有紀子 |

- インバウンド観光セミナー

NPO 法人スマート観光推進機構との共同主催により、インバウンド観光における最新の取り組みを紹介するセミナーを開催し、観光関係者への情報提供とコミュニティの形成を行った。

| 日時 | タイトル・内容 | 講師 | 参加 |
|-------|--------------------------------------|---------------------------------|------|
| 4/6 | インバウンド観光における ICT 戦略 | エクスポート・ジャパン(株) 代表取締役 高岡 謙二 | 39 名 |
| 5/9 | 留学生をインバウンドに活かすために | 学校法人エール学園 理事長 長谷川 恵一 | 83 名 |
| 6/1 | インバウンド時代がやって来た! ～「観光のひろば」から見えるもの～ | NPO 法人スマート観光推進機構 理事長 星乃 勝 | 51 名 |
| 7/2 | 日本酒 3.0 世界化戦略を考える! in 白鶴 酒造 | 大阪経済大学 客員教授 李 容淑 | 53 名 |
| 9/5 | 「時代の流れを読む」事業を通じて学んだ事 | (株)初亀 代表取締役 亀岡 育男 | 35 名 |
| 10/4 | 新幹線による地域創造、そして観光 | JR 東海 相談役 須田 寛 | 63 名 |
| 11/10 | 国際リゾート戦略! ～都市とリゾートに賑わいをもたらす～ | 有馬温泉陶泉御所坊 十五代目主人 金井 啓修 | 44 名 |
| 1/16 | お客さまの'あったらいいな'を実現する戦略! | 道頓堀ホテル 専務取締役 橋本 明元 | 48 名 |
| 2/10 | 熊野古道とサンティアゴ巡礼道 ～ふたつの道の共同プロモーション～ | (一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長 多田 稔子 | 44 名 |
| 3/15 | 「文化財のレッドクロス ～瀕死の文化財を救う仕組み～ | (株)時有人&TimeAge 代表取締役 清水 宏一 | 33 名 |

【その他事業】 産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

1. NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

情報技術とバイオ、医療の融合分野における研究開発および教育普及活動を行うことを目的に設立された同法人の事務局として、2004 年度より運営支援を行っている。

- バイオグリッド HPCI プロジェクト(通称:KBDD プロジェクト)
創薬にスーパーコンピュータを活用しようというプロジェクトで 2012 年度より開始。現在、製薬企業 22 社、IT 企業 2 社、京都大学、横浜市立大学、兵庫県立大学、産業技術総合研究所、先端医療振興財団が参画している。
今年度は前年度に引き続き、蛋白質と候補物質の結合自由エネルギー(結合度合いを示す指標)を計算するため必要である蛋白質と候補物質の初期構造の探索方法を開発した。
なお、このプロジェクトを推進するため、NPO 法人バイオグリッドセンター関西が付与されたスーパーコンピュータ「京」の産業利用枠を利用している。
- 事務局運営
第 13 回総会(5 月 28 日)およびバイオグリッド研究会開催をはじめ、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトメイキングの支援を行った。

2. 創薬バリューチェーン・プロジェクトの支援

コンピュータを活用した創薬の研究開発プロジェクトである創薬バリューチェーン・プロジェクトは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)へプロジェクトを継承することで昨年度を以って終了し、今年度は議事録の集約などを行なった。

3. スマートウェルネス研究会の運営支援

事務局として研究会活動の運営支援をしてきたが、本研究会が 5 月末をもって解散したため運営支援も終了した。

ただし、本研究会主催のスマートウェルネス・オープンセミナーは、6 月以降は当財団が主催となり、よどきり医療と介護のまちづくり株の協力を得て、前述のとおり 5 回にわたり開催した。

4. エリアマネジメント活動の支援

- 梅田地区における案内所業務への支援
運営主体が様々である梅田の案内所を、連携することでサービスの向上を目指す活動を支援している。
具体的には、情報収集を行い案内所業務の共通課題に対応している。
今年度も、全体的な情報の把握と整理が必要なもの(バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関等)のマップと詳細情報リストを作成し、各案内所に配布するとともに年 4 回の更新を行った。
- 国際的ビジネス環境整備・シティセールス支援事業
国土交通省の補助金を活用して、梅田地区エリアマネジメント実践連絡会が海外企業の誘致や受入れ環境整備を目指して実施する事業の一部を受託し、運営支援を行った。

| 期間 | 事業名 | 事業内容と受託業務 |
|---------|----------------------------------|---|
| 7～8月 | Umeda Meeting Planners Guide の作成 | 梅田エリアの MICE 関連施設情報パンフレット (ディレクション、データ収集、監修) |
| 9/8～9 | MIPIM JAPAN への出展(大阪) | 不動産分野での国際見本市への出展 (出展準備、ブース運営、フォローアップ) |
| 3/14～16 | MIPIM 2017 への参加 (フランス・カンヌ) | 不動産分野での国際見本市への参加 (投資家との事前アポイント、面談サポート、 フォローアップ) |

- 大阪エリアマネジメント活性化会議の支援
今年度より、大阪市内におけるエリアマネジメント活動の活性化に向けたアクションプランとガイドラインの策定をめざし、大阪市と市内エリアマネジメント 8 団体で構成される会議体が発足した。
当財団は大阪市とともに共同事務局を担い、会議の進行補助と団体から徴収した会費の管理業務を行った。

5. 都市住宅学会関西支部の運営支援

昨年度より、同学会から関西支部の事務局業務を受託し運営を行っている。
今年度は、総会、記念シンポジウムを 4 月 16 日に開催し、常議員会を 8 回開催した。また、研究委員会の新設、研究小論発表・討論会の実施、シンポジウム、見学会の開催などを行った。

6. 起業家支援オフィスの運営(GVH Osaka の運営の主体化)

2011 年 1 月の開設以降、当財団の一角に入居する(株)サンブリッジグローバルベンチャーズが管理し運営をするという形態で推進してきた起業家支援オフィス「GVH Osaka」を、今年度 4 月より当財団の事業と位置づけ、新たに(株)サンブリッジグローバルベンチャーズに運営委託する形態に変更した。

会員数は期首 48 社 65 名であったが、支援対象をスタートアップに絞っていくため、会員の戦略的入れ替えを行い、年度末には 32 社 42 名となった。

会員に対してはオフィス環境の提供に加えて、隔週朝に勉強会「Morning Jam」を実施したり定期メンタリングを通じて、事業成長を促進した。

【法人管理】 公益法人としての適正な運営

- 理事会を 3 回、評議員会を 1 回開催し、公益法人として適法運営に努めた。

以上

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

以上